

開成の杜

第89号 ●2012年10月1日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所/学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024 (932) 4848 (代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人/学園長 関口 修



構内舗道環境工事が終了した建学記念講堂前

(撮影 山口郁生)

『自然の変化に思う』



理事長・学園長
関口 修

決断は、実のところそんなに難しいことではない。難しいのはその前の熟慮である。 徳川家康

世界で最も哀れな人とは、目は見えてもビジョンのない人だ。希望は人を成功に導く信仰である。希望が無ければ何事も成就するものではない。

幸福の扉が一つ閉じる時は、別の一つが開きます。けれども私たちは閉じたほうばかりながめていて、こちらに向かつて開かれているもう一つの方に気付かないことが多いのです。 ヘレン ケラー

過去のことは過去のことだといって片付けてしまえば、それによって、我々は未来をも放棄してしまうことになる。

ウインストン・スペンサー チャーチル
今年も残すところ2ヶ月と少々になつてしまった。まさに光陰矢のごとしといえよう。今年の始まりは全国各地での大雪が長々と続き、甚大な被害をもたらした。漸く桜に出会ったのは5月の連休を前にしての事であった。大震災で地球のメカニズムが狂ってしまったのかと心配したが学園の名桜は期待に違わず美しい姿を披露してくれた。しかし、光輝く新緑を愛でようにも、つかの間の間であった。厳しいゲリラ豪雨や思いもよらぬ竜巻は自然の計り知れぬ恐ろしさを我々に知らしめ、更に記録的な猛暑日の連続であった。

電力不足による電気料金の値上げや節電も議論の対象となったが、地球の温暖化防止の叫びが世

論の中心とならなかつたのは何故なのだろうか。原子力発電が本当に人類の生活に必要なものの言論は、誤りではなからうか。

人類とあらゆる科学の歴史を俯瞰的に考えると、科学には未解決な部分が多すぎるのではなからうか。地球上、いたるところの習俗には早魃に苦しむ人々が雨乞いの祈りを捧げた記録が残されている。科学者はドライアイスを積乱雲に噴霧したこともあったが成功とは行かなかつたようである。科学の発達により、宇宙の探査が始められてはいるが、科学は地球の実態をどれだけ克明に知りえているのであろうか。理論があつても実際は対処不可能な分野が多い。

我々は科学が万能ではないとの教育を受けてきているが、解決の手段がない科学を生活の場を利用するのは、如何なるものであろうか。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、人災との調査報告がなされているが、学問の場に身を置く我々として、大いに反省しなければならぬ課題に直面している。それは、責任をもつて終末処理が出来ない手段に手を染めてはならないという倫理観の養成が欠落していたことである。

安全確保が危いのであれば、安全を確保する研究が優先されないのは学問とはいえないのではなからうか。

今回の原子力発電所の事故は、管理者である東京電力と監督者である安全保安院や国の責任であることは当然だが、原子力発電に携わってきた全ての人々にも責任がある。

このように考えれば、教育に携わっている全ての関係者の責任こそ科学者を育んだのだから、慎重に教育の意義を問い直さなければならぬ。そして、家庭教育も同様であることを付言したい。

(H24.9.5記)

復興へ大学の役割は

「本学でシンポジウム開催」
8月8日(水)、本学建学記念講堂において日本私立大学団体連合会・清家篤会長・日本私立短期大学協会(佐藤弘毅会長)主催のシンポジウムが開催された。会場には東北のみならず全国からの大学関係や地元市民等合わせて700人が詰めかけた。

開催テーマに「東日本大震災を越えて大学のなすべきこと、できること」教育の復興なくして地域の復興と国の再生なし」を掲げ、私立大学・私立短期大学の関係者が一堂に会し、私学の果たすべき役割を探った。昨年8月の仙台開催に続き2回目。シンポジウムに先立ち、同連合会の清家篤会長(慶応義塾長)が挨拶。兄玉龍彦東大アイントロップ総合セン



700人が参加して開催されたシンポジウム



コーディネータを務めた関口学長

シンポジウム冒頭では、坂東久美子文部科学省高等教育局長、佐藤雄平福島県知事、原正夫郡山市市長が登壇し来賓の挨拶を述べた。シンポジウムでは本学の関口修学長がコーディネータを務め、「東北被災大学のこの1年の取り組みと地域貢献」と題してシンポジストの原正夫郡山市市長、日高義博専修大学学長、関口武司いわき明星大学学長、遠藤静子桜の聖母短期大学学長が各大学の震災後の取り組みなどについて意見を交わした。

平成24年度KGCサマーリフレッシュプログラム開催

平成24年度のKGCサマーリフレッシュプログラムは、7月30日(月)〜8月3日(金)に開催され、前半の2日間に実施された「教育の最新事情を主な内容とする必修領域」には連日約200名の受講生が、後半の3日間に実施された「教科指導生徒指導を主な内容とする選択領域」には連日約170名の受講生が本学で講習を受けた。

この講習は、平成21年4月からの「教員免許更新制」の導入により、主に現職の教員免許保持者が、修了確認期限までに30時間以上の講習の課程を修了することが義務付けられたことを受けて実施しているものであるが、本学においては、現職教員以外でも「さらに専門性を高めたい」「興味関心が深いので講座を聴講してみたい」という方々のご要望にも応えるべく、リカレント生・聴講生としての受講も可能にしており、非常に好評を博している。

この講習も4年目を迎え、地域の方々に浸透しているため、募集からわずか短期間で定員が充足してしまいう講座も出てきているのが特徴になっている。本学では、次年度開設のために、今後文科省への申請を行い、来年2月頃には認可を受けることとなるため、該当の方々には、その時期に本学のホームページ等を確認するようお願いしている。

最後に46年間、無事勤務でできましたのは名誉学園長先生、学長先生、多くの教職員の皆様、そして多くの卒業生、現学生の皆さんのお蔭であり感謝申し上げますとともに、開成学園の益々の発展をお祈り申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。

教育方針で理解を深める 平成24年度方部別教育懇談会開催

本学園の平成24年度方部教育懇談会は大学、短大が6月30日の仙台、浜通り部会から始まり、7月16日の県南部会(白河)の8会場で開催された。

郡山方部会は7月7日建学記念講堂に約300人が出席して開かれた。明珍賢司会長、関口修学園長が挨拶。続いて山本教務部長から本学の教育方針、大学及び短大の卒業に必要な単位数や出席率についての説明があった。田辺学生生活部長からは学生指導の現状が、江藤就職部長からは学園の就職支援体制や、就職率などの説明があった。

このあと、各学科との個別面談に移り、担当の先生方との懇談で、教育内容の理解を深めた。



挨拶する明珍会長

永崎さんが優勝 第60回全国高等学校決勝弁論大会

高校音楽科3年の永崎望未さんが、9月8日、群馬県立館林高校主催の第60回全国高等学校決勝弁論大会で見事優勝した。

書類審査をパスした24人が出場した。永崎さんは「生きていく」と題して発表。「うつくしまふくしま」と誇れる我が故郷福島は、世界のフクシマとなった。原発事故の影響が大きく残る中での大飯原発の再稼働は、本当に正しいのか。再稼働には、一人ひとりの責任が必要。私は今回の震災を通して多くのことを学び、将来教師になりたいという夢を描くことができた。



優勝した永崎さん

開成学園での46年



ごあいさつ

郡山女子大学
前学長
山田幸二氏

年には学科改組により食物栄養学科から人間生活学科、更には短期大学部家政科食物栄養専攻と勤務が変わり、平成24年8月31日をもって退職することになりました。

昭和41年4月、現在の62年館1階の小さな学長室において、学長先生(現在の名誉学園長)との昼食から開成学園での勤務がスタートいたしました。この年に4年制の郡山女子大学家政学部が尊敬・責任・自由を建学精神とし開学しました。

最初に家政学部食物栄養学科、昭和61

この46年間、大学の使命は、学問研究をベースとした教育と社会への貢献であると言いつつも、他者から見れば何だと思われられるかもしれないが、微力ながら日々努力し、たと自分では思い満足して退職することができました。

研究面においては学生と共に、できるだけの時代の社会的要請に向け、タンパク質食糧資源の開発、肥満と脂質代謝におよぼすタンパク質ならびにアミノ酸の影響、動脈硬化に関することが指摘されている血中コレステロール濃度のタンパク質とアミノ酸による調節、緑色野菜漬物による光過敏症原因物質の解明、福島県の銘柄豚であるえごま豚の開発、福島県内の伝統野菜である郡山の曲りねぎ、金山村のあざぎ大根や赤かぼちゃ、会津の小菊かぼちゃや立川ごぼうなどの栄養学的特徴についての研究、県の農業関係の試験センターとの共同研究、県内の農業高校の生徒のクラブ活動指導などを行ってきました。

郡山女子大学附属高等学校 構内舗道環境改善工事 (放射線量低減処置工事前後結果一覧)				
7月30日から8月25日の間に実施した構内舗道環境改善工事の放射線測定結果 *放射線量の数値は全てマイクロシーベルト/時				
地点名	事前測定 測定高1cm [μSv/h]	事後測定 測定高1cm [μSv/h]	事前測定 測定高100cm [μSv/h]	事後測定 測定高100cm [μSv/h]
附属高校正門	0.73	0.16	0.54	0.21
高校自転車置き場	1.2	0.17	0.64	0.18
職員玄関前	0.46	0.16	0.28	0.19
学園第3体育館前	0.34	0.18	0.30	0.20
グラウンド	0.71	0.12	0.41	0.13
北駐車場	0.49	0.13	0.30	0.15
体育準備室前	0.16	0.10	0.13	0.09
武道館	0.77	0.13	0.41	0.15

—大学院・大学・短大合同説明会開催— 平成25年度入学者選抜実施要項発表

平成25年度入学者選抜実施内容および教育内容等説明会が6月28日、建学記念講堂で開催され56人の進学指導教諭らが県内外から参加した。

初めに関口修学長が「尊敬責任・自由」の建学精神に基づく本学の教育方針や創立以来継続している「教養講座」「芸術鑑賞講座」で知を育てる教育に力を注いでいると挨拶した。

影山主任教授から次年度も実施される「授業料等減免支援措置」に

ついて説明があった。

次いで各学科の主任教授からの学科説明があり、資料に目を通していった。

さらに、各学科、専攻ごとの個別面談では選抜形態に関わる具体的な対応や取得資格や就職状況など熱心な質問が相次いだ。

同時に設置された出身学生との面談会場では、教え子から本学の授業や日常生活などを熱心に聞いていた。

平成25年度入学案内概要

◆募集人員

【大学院】

本大学院は、本大学家政学部人間生活学科及び食物栄養学科を基礎に、人間生活学研究科人間生活学専攻の修士課程(2年)、さらに博士(後期)課程(3年)を設けている。

○人間生活学研究科

修士課程10名(含昼夜開講制)。
博士(後期)課程3名。

【大学】

家政学部人間生活学科40名(生活総合コース10名・福祉コース20名)。家政学部食物栄養学科80名。

【大学3年次編入】

本大学では、両学科とも3年次への編入を認めている。募集人員は両学科とも各10名。

短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程を卒業、修了または見込みが条件であるが、同等以上の学力があると認められた者も出願できる。

【短期大学部】

家政科福祉情報専攻 40名
家政科食物栄養専攻 120名
幼児教育学科 140名
生活芸術科 20名
音楽科 30名
文化学科 40名

【専攻科文化学専攻】

人間の歴史や文化を体系的に学び、総合的な判断力で豊かな人間性を培う。大学評価・学位授与機構の審査をパスすると「文学士」の学位を得ることができる。 20名

◆選抜方法

推薦生(特待生・指定校・公募) 特別生(専門総合学科/高等専門/専修学校/社会人/高認合格者) / 外国人留学生/帰国子女) 高大連携生(本附属高校生) A O生(自己推薦)

◆選抜日程 (別項参照)

平成25年度教育内容等説明会—附属高校—

県内各中学校から、進路指導関係の先生方をお招きして、平成25年度の教育内容等説明会が、9月14日に建学記念講堂において開催された。

初めに、関口修学長が「尊敬責任・自由」の建学の精神のもと、附属高等学校が確かな学力とともに豊かな人生の礎となる教養教育に力を入れ、社会でその特性を發揮できる有為な人材を育成している本校の教育について述べた。また、放射線量低減措置工事を行い、安心して学べる学園の環境整備を推進している状況を述べた。

次いで、普通科・音楽科・美術科・食

物の学科紹介とそれぞれの特徴について、各学科主任が説明した。さらに大学から山本裕詞教務部長が郡山女子大学と同短期大学部の概要を説明した。

その後、八幡副校長が平成25年度の入学者選考要項、関口育英奨学金制度並びに東日本大震災に伴う教育支援等について説明した。

最後に、中学校の先生方から、特待生の条件の変更点や、二次募集の有無などについて質問があった。

【入学者選考の概要】
1 募集人員 220名(女子のみ)
(普通科)150名

2

選考種類
特待生・推薦生・学力選考生



関口校長より本校の教育と環境整備について説明

◆A O生選抜日程

I期募集終了。

II期の募集は次のとおりです。

■大学 家政学部 人間生活学科
家政学部 食物栄養学科

■短大 家政科 福祉情報専攻
家政科 食物栄養専攻

幼児教育学科・生活芸術科・音楽科・文化学科
エントリー期間 10/5(金)まで
面接日 10/13(土)

合否通知発送日 10/17(水)
III期の募集は次のとおりです。

●全学部・学科で実施します。

■大学 家政学部 人間生活学科
家政学部 食物栄養学科

■短大 家政科 福祉情報専攻
家政科 食物栄養専攻

幼児教育学科・生活芸術科・音楽科・文化学科
エントリー期間 2/15(金)~
面接日 3/1(金)

合否通知発送日 3/13(水)

*詳しくは教務部・入学事務部まで

平成25年度 入学者選抜日程

	選抜方法	願書受付期間	選抜日	合否通知発送日	手続き締切日
大 学	指定校推薦生・特待生 公募推薦生 I 期 特別生 I 期	10/18(木)~11/1(木)	11/10(土)	11/16(金)	11/29(木)
	高大連携生	10/18(木)~11/1(木)	11/9(金)	11/16(金)	11/29(木)
	公募推薦生 II 期 特別生 II 期	11/16(金)~11/30(金)	12/8(土)	12/14(金)	12/28(金)
	一般生 I 期	1/11(金)~1/25(金)	2/2(土)	2/7(木)	2/18(月)
	一般生 II 期	2/4(月)~2/18(月)	2/22(金)	2/28(木)	3/14(木)
短期大学部	指定校推薦生・特待生 公募推薦生 I 期 特別生 I 期	10/18(木)~11/1(木)	11/10(土) 11/11(日)※①	11/16(金)	11/29(木)
	高大連携生	10/18(木)~11/1(木)	11/9(金)	11/16(金)	11/29(木)
	公募推薦生 II 期 特別生 II 期	11/16(金)~11/30(金)	12/8(土) 12/9(日)※②	12/14(金)	12/28(金)
	一般生 I 期	1/11(金)~1/25(金)	2/3(日)	2/7(木)	2/18(月)
	一般生 II 期	2/4(月)~2/18(月)	2/23(土)	2/28(木)	3/14(木)

※①11/10(土) 生芸・音楽・文化 11/11(日) 福情・食栄・幼児教育 ※②12/8(土) 生芸・音楽・文化 12/9(日) 福情・食栄・幼児教育

よくみる よくきく
よくかんがえて
10月1日から願書受付開始
附属幼稚園

本園は「よくみる よくきく よくかんがえて」を教育目標に掲げ、明るく、素直な賢い子どもたちを育てるために、体を鍛え、基本的な生活を身につけ、正しい生活態度を養っている。遠足、誕生会、お泊り保育などでの友だち関係も大切にしている。送迎用のスクールバスも運行、延長保育もある本園の来年度願書受付は10月1日から、10月13日は面接日となっている。

人事 9月1日付け

郡山女子大学 副学長
郡山女子大学教授 影山 彌
郡山女子大学短期大学部 副学長
郡山女子大学短期大学部教授
石村 由美子
(任期は平成25年3月31日までとする)



ネーチャードームを見学

附属高校の平成24年度「体験入学」が、7月28日、開催され、郡山市内はもとより県内各中学校から中学生2、3年生、教員、保護者合わせて344名が訪れた。

開成式は放送部高橋妙、鶴田明日香さんの楽しい進行で進められた。ビデオによる学校紹介の後に北池智美

生徒会長の歓迎の挨拶があり、引き続き本校生徒代表「普通科笹山彩花、音楽科水崎望未、美術科榎裕紀、食物科小竹森まりん」による各科の説明が、高校生活の体験を踏まえ親しみやすい内容で行われた。さらに、関口修校長から「夢をかなえるためのチャレンジを」と歓迎の言葉が述べられ、八幡副校長より平成25年度の入学志願者内容等の説明があった。

式後、参加者は施設見学、授業体験、部活動体験のグループに分かれて附属高校の活動を体験した。特に音楽科、美術科、食物科の体験では、実習や実技を通して高校の授業の一端を身体で感じることができ、中学生は満足した様子であった。また、部活動体験では、高校生の力あふれる演技や動きに圧倒される様子が見られた。

また、交流会会場では、本校生徒と参加中学生が、高校の生活全般にわたって様々な意見の交換が行われ、活発な交流が行われた。これらの体験が、中学生の進路選択につながるべく、いくことを期待したい。

8月30日・31日の2日間バレーボールとバスケットボールの2種目にクラス代表チームが熱戦を繰り広げた。成績は次の通り。

バレーボール

- 第1位 3年3組
- 第2位 2年4組
- 第3位 3年1組

バスケットボール

- 第1位 3年3組
- 第2位 3年5組
- 第3位 3年2組

1年2組Bチーム

全国大学弓道選手権大会が8月14日から3日間古屋市で行われ、本学弓道部も出場して、全国の精鋭と腕を競った。大会には全国から200を超える大学が参加、予選リーグを勝ち上がった24チームが決勝トーナメントに進出した。名古屋名物のきしめんやみそカマでパワーアップした本学弓道部は、予選リーグで大いに健闘したが、小差で決勝トーナメント進出を逃した。

7月27日から29日までの3日間、美術系コースへ進学を予定している高校生に技術向上指導をする講習会が芸術館で開催された。

講座はデッサン、コンピュータ、彫刻の3部門で40名が受講した。デッサンやピアノ演奏の

定期演奏会で成果を披露

音楽科と音楽部による定期演奏会が7月21日、建学記念講堂で行われ、練習の成果を披露した。

演奏会では音楽部29人が合唱で「無門」と「花火ひらく」を披露。オーケストラでは選ばれた7人がピアノ・フルートの独奏でモーツァルトなどの曲を奏でた。

最後は短大音楽科の学生を交えた郡山開成学園オーケストラがシューベルトの組曲「ザムザ」から3曲を披露した。

特集 私たちの学園

学問を通し、女性の生き方を考える。未来に向けた学びの一步

本学の魅力にふれる「オープンキャンパス」開催



オープンキャンパスのオリエンテーション

6月17日、7月14日、9月9日の3日間、平成24年度オープンキャンパスが開催された。模擬授業に出席し、直接志望学科の先生方からアドバイスが受けられるとあって、東北各県や北関東などから1,000人が参加。

オリエンテーションでは関口修学長が建学の精神と沿革、女子の高等教育への情熱とその概要を話された。各科が実施した当日の模様などを紹介する。

心一つにしてクラスの和を図り、学年間の交流を進める第38回校内合唱コンクールが今年も6月27日、建学記念講堂で盛大に開かれた。全学年16クラスが練習を重ね、選定曲を次々に披露し、3年3組の「旅立ちの時」が学校長賞に選ばれた。成績は次の通り。

▽学校長賞 3年3組

▽銀賞 郡山女子大学 開成の社 女声合唱団

●高校の部

▽銀賞 郡山女子大学附属高校

※共に東北大会に出場

2012天童ボウルが6月10日、山形県天童市で開催され、本学リベルトラスが堂々2連覇を達成した。増子智美さん(大食4年)がMVPに選ばれた。

1回戦 シード

準決勝 郡山女子大学

決勝 福島フェリックス

天童ビーナッツ

6 38 18 38

富岡の子どもたちとデザート作りで楽しく交流

富岡ロータリークラブ主催の「こども達との心の交流事業」が8月20日、富岡町おこりやま児童クラブで行われ、大食2年の大浦真美さんら6人が子ども達とデザート作りをチャレンジした。

避難所生活が続く富岡の小学生に元気になってもらいたいとの思いから企画されたもので8人の子ども達は学生と一緒にバフェを作りながら楽しい時間を過ごした。

参加した小学生は「大学生のお姉さんたちと作ったパフェは美味しいです。家でも家族に作ってあげたいです」と笑顔で話していた。

しかし、毎年着実に力をつけており「来年こそ決勝トーナメント進出」を合言葉に練習を開始した。大会期間中、名古屋のターミナル駅では格闘の「やまとでし」が、あちこちに見られ、道行く人々の目を引いていた。これをまさしく「なでしこジャパン」。

サンでは静物を鉛筆で描く。CGでは画像編集ソフトによるポストカード制作。彫刻では木彫りでアークセサリーをつくるなどの技術を専任教員から指導を受けた。

本科に入学を希望する10人の高校生が8月6日から3日間、レッスンを受けた。講習会は楽典とソルフェージュの講義の後、ピアノ、声楽、ヴァイオリン、フルート、クラリネット、楽典に分かれ、本学教員の個人レッスンで技術の向上を図った。最終日には楽典と聴音、新曲視唱の認定テストが行われた。合格すると来春の入学志願者「推薦生」・「一般生」で、これらの科目は免除される。

附属高校体験入学会開催

NEWS 学園ニュース

第66回福島県合唱コンクール東北大会へ出場

第67回国民体育大会新体操競技福島県代表に4人選抜される

「生活芸術科」デッサンやピアノ演奏の実技指導

「管理栄養士の仕事の内容を紹介」

食物栄養学科では、健康を「食」から支える「管理栄養士」の仕事の内容を紹介。在学生との懇談では面接での内容や、授業講座、芸術鑑賞講座などを説明した。

「糖病食」の試作を体験

低カロリーで栄養バランスのとれた「糖病食」の試作を体験した。調理実習台には在学生が1人ずつ付き作業の手伝いをした。メニューは「トマトパスタ(アマトリチャーナ)」と「フルーツ」。

ピアノ音楽ソルフェージュのレッスンを体験

体験授業はピアノ音楽ソルフェージュのレッスン。先生の指導に熱心に見入っていた。個人面談でも就職や取得資格などについて質問が相次いだ。

初の「無料送迎バス」を運行

今年度のオープンキャンパスは県内外の多くの高校生にも実際に本学を体験してもらえようにと、初の「無料送迎バス」が運行された。

「マーチングバンド」

私たちマーチングバンド部は、富山県で行われた第36回全国高等学校総合文化祭のバレー部門、マーチングバンド部門、ワグニング部門に出場してまいりました。全国大会という大舞台で発表するという事で、不

放送部

全国大会に出場することが、上達への一番の近道です。

今回、私たち放送部は、第36回全国高等学校総合文化祭富山大会放送部門に出場して参りました。オーディオビジュアル部門という団体での出場は初めてということで、胸を張って開催地の富山。

発表当日は与えられた5分間を決して無駄にせず、改善すべき点は何かを考え発表し、また、他の学校の発表からは私たちがはたさないような所を吸収しよう、真剣に鑑賞しました。5日間の団体行動では、自分は今、すべき事に積極的に取り組む順応力を身に付けなければならぬ、部活全体として、また、人として成長できた大切な5日間となりました。

「生活総合コース」「福祉コース」「建築デザインコース」の内容をパネルで展示。それぞれの担当教員から特色、専門資格、進路等を説明した。その後、界面活性剤実験、介護体験、建築模型制作等を見学した。

「ビジネスマナーを身につけよう」等の講座で模擬授業を体験

短大/家政科福祉情報専攻

子どもの教育・保育の基本を体験

短大/幼児教育学科

幼児教育学科の教育目標やカリキュラムと取得資格、就職などを熱心に質問していた。実技では、「歌・リズム遊び体験」「造形体験」「乳児保育体験」など真剣に学んだ。

食の歴史的背景を学ぶ

短大/文化学科

考古学、日本史、美術史、民俗学などから食の歴史的背景を学んだ。

全国大会に出場

平成24年度全国高等学校総合体育大会が福井県を中心に開催され、附属高校新体操部が2年連続11回目の出場(総合28位と健闘した)。また、富山県内で開催された第36回高校総合文化祭には放送部とマーチングバンド部が出場した。

安な気持ちでいっぱいでした。今回の大会では、東日本大震災で全国から多くの支援をいただいたことに感謝の気持ちを込め、福島県から元気を発信しようと呼びかけました。大会当日は「福島県頑張れ」という大きな声援に心が温まり、全国の方から勇気と元気をいただくことができました。その声援に感謝し、私たちの精一杯の演奏演技ができたと思います。今後も周りの方に元気を与えられるように頑張っていきたいと思えます。

全国からの支援に感謝を込めて

学校法人 郡山開成学園

平成23年度 事業報告

一、法人の概要

(1) 建学の精神

本学園は、建学の精神「尊敬」「責任」「自由」を教育目標としている。

それは、お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創り他者においてそれを認めること、そして、人間として存在するためには、責任ある行動で社会への自覚を持つこと。

つまり、個性を重視し、互いに理解する(個)の確立と(他)との協調をもつ、自主・自立できる女性としての人間形成を図るのが目的である。

(2) 学校法人の沿革

○法人名 学校法人郡山開成学園(創立昭和22年4月22日)

○所在地 福島県郡山市開成三丁目25番2号

○代表者 理事長 学園長 関口修

○設置学校名

郡山女子大学大学院

開設：修士課程平成4年4月
博士課程平成8年4月

郡山女子大学

開設：昭和41年4月

郡山女子大学短期大学部

開設：昭和25年4月

郡山女子大学附属高等学校

開設：昭和32年4月

郡山女子大学附属幼稚園

開設：昭和30年4月

(3) 学校学部・学科等の入学定員、学生数の状況(平成23年5月1日現在)

在籍総数 1,752名

学則等収容定員 2,549名

在籍数一覧 表①参照

(4) 役員・教職員
理事 8人 監事 2人 評議員 21人
※理事会・評議員会
理事会 5回開催、評議員会 4回開催
監事監査 1回実施、会計士監査 3回
(5) 教職員 表②参照

二、事業の概要(当該年度)

本学の建学の精神である「尊敬責任・自由」と学園の基本方針である「品位高尚」「秩序儉約」「創造自立」

を元に、それぞれの学科・部署において計画した教育・運営に関する事項を実施した。

(1) 法人関係

・ 新形式・年度当初学園全体職員会
・ 平成24年度大学入試センター試験会場校
・ 年度末学園全体職員会

(2) 大学院・大学・短大
・ 大学院修士課程第20回、大学第46回、短大第62回、専攻科第12回入学式
・ 第1回～第3回オープンキャンパス
・ 平成24年度大学・短大入学者選抜実施内容及び教育内容等説明会
・ KGCサマリーフレッシュプログラム

【教員免許更新講習会】
・ AOS生1期～3期選抜実施
・ 大学3年編入1期～3期選抜実施

・ 大学短大「高大連携生」選抜実施
・ 大学短大「特待生・指定校生公募推薦生1期特別生1期」選抜実施
・ 大学入学者短大「公募推薦生2期特別生2期専攻科1期」選抜実施
・ 第8回市民フォーラム 日本家政学会、同東北北海道支部共催「外部被曝内部被曝」放射線と放射能の違い

・ 大学短大「一般生1期～2期」大学3年編入2期～3期選抜実施
・ 大学院修士課程第19回修了式、大学第43回、短大第61回専攻科第11回卒業式
その他
主任：大学短大教授会・研究科委員会(月1回)、入試判定委員会、学生生活委員会、就職対策委員会担当者会議、期末試験、教育実習、定期演奏会、卒業研究発表、健康診断、学生相談、教育課程体験事前指導など
※平成23年度卒業生就職状況
大学 卒業生数120人 就職希望者96人 就職決定者数93人(就職率97%)
短大 卒業生数313人 就職希望者268人 就職決定者数247人(就職率92%)

(3) 附属高等学校
「私を創るー未来の私を考えてー」という努力目標を掲げ、生徒一人ひとりが自分の目標を設定し、高校生活をより有意義に送る為に生徒の自己啓発と自発性を育成するという観点から、全教員が一丸となって取り組んだ。教師自身も、各学科・教科や各部署学年それぞれにおいて、努力目標を設定し、その目標実現のために十分に努力した。

表① 院生・学生・生徒・園児在籍総数【1,752人：昨年比125名減】学則等収容定員【2,549人】

表② 教職員 231名【教育職員155名 事務職員76名】

表③ 時間雇用職員 8名

点から、全教員が一丸となって取り組んだ。

・ 附属高等学校第55回入学式
・ 第1回、2回体験入学(高校)

・ 修学旅行沖縄方面(第2学年)
・ 平成24年度入学式、短大「高大連携生」選抜日

・ 附属高等学校推薦生選考会
・ 附属高等学校学力選考会
・ 附属高等学校第53回卒業式
・ 附属高等学校新入生説明会
その他
職員会議運営委員会(月1回開催) 考査(前期中間、後期中間、後期末、追、再、音楽科実技等)実力テスト、教育実習、進学相談会、集会、表彰伝達式、壮行会、交通安全教室、列車通学者指導、自転車点検、健康診断、校内合唱コンクール、校内球技大会、定期演奏会、卒業発表会、卒業作品展など
部活動及び応募等の全国大会出場
・ 第64回全日本バレーボール高等学校選手権大会出場 第11回マージン&バンドステージ全国大会優秀賞第5回声楽アンサンブルコンテスト全国大会入賞

(4) 附属幼稚園

本園は、よくみる、よくきく、よくかんがえてを教育目標として、教職員全員が一丸となって、園児一人ひとりにきめ細かい保育と基本的な生活習慣を身につけさせるとともに集団での遊びにも力を入れて保育を行った。

特に、園児の事故をなくすことに努め、生活指導に力を入れ、安全管理に心がけ生活習慣の形成の徹底を図ること、園児一人ひとりへの気配りを良くすること、教師間の連携を十分に図ることに努力した。

延長保育は、仕事や家事都合等で利用する家庭も多く、家庭的な雰囲気の中で保育が進められた。
実施した主な事業
・ 附属幼稚園第57回入園式
・ 平成24年度入園説明会(2回)
・ 附属幼稚園運動会(第二体育館)
・ 平成24年度入園面接、1日入園
・ 附属幼稚園第56回卒園式
その他
・ 春秋の遠足、保育参観、お泊り保育、七五三、はくとわたしのさくひんでん、クリスマス会、おもちゃつき、節分のお

あつまり、お別れ会食、親子パーティー、発表会、園庭整備、父母の講座、KGCマミークラブなど

(5) 家庭寮 新入寮生36名
・ 新入寮生オリエンテーション、リーダー会議(月1回開催)、入寮生歓迎会、お食事会、七夕会、いもに会、クリスマス会等

(6) 大学図書館(高校分館を含む)
・ 本学園図書高大連携打合せ会
・ 運営委員会・蔵書点検
(7) 学園創立者関口英奨学金の支給
・ 平成23年度 大学生10名、短大生10名、高校生10名 計30名
(8) 学生生徒・園児募集
・ 進学相談会(会場形式11回3社86名の来場者)
・ 高等学校訪問(県内291校、東北6県69校)
・ 中学校訪問(年度当初、7月中旬に訪問・園児募集パンフレット)

(9) 安全管理
・ 学生・生徒・園児の安全対策 警備の強化による安全確保、32台の監視カメラを配置また警備員の増員により、特に下校時や部活動帰りの学生・生徒の安全に努めた。
・ 交通事故防止(安全運転等の啓発)交通安全協会との連携のもと、ポスター掲示や教職員へのシートベルトの着用などの安全に対することについて周知徹底を図っており、交通事故等はなかった。
・ 避難訓練(大学短大1回、高校1回、幼稚園2回、家庭寮2回)
(10) 施設設備関係
教育の場に相応しい環境造りをスロウガンとして、教育の充実を図るべく様々な環境整備を行った。
1 エコキャンパス推進(第3期)工事(太陽光パネル設置等)
2 家政学館、芸術館内放送設備
3 学生相談室用緊急時連絡装置
4 RI(ラジオアイソトープ)
5 食品放射能測定装置(2セット)
6 幼稚園空気清浄装置
7 その他機器備品
8 環境関係
①地球温暖化対策の取組みを評価する「第3回エコ大学ランキング」私立大学の部で本学が一位に輝いた。
②国公立、私立大学両部門の総合、エネルギーCO₂、自然エネルギー導入率の各部門で3位に入賞。
※家族会等
・ 家族会役員常任委員会合同委員会

(4) 建物等の復旧

大震災による建物等の被害は、15棟が小破り中破、5月上旬には復旧工事を完了。設備については、数多くの設備が被災したが9月上旬には修理等が完了した。

② 放射能対策
まずは、幼稚園の園庭をはじめ学園内校地の表土の入れ替え、側溝やインターロッキングなどの高圧洗浄、などあらゆる除染を行い、放射線を低減させた。

③ 学生生徒への支援
原発事故による避難生活、保護者の失職など経済的に困窮している学生・生徒に対して、授業料を免除するなどの支援を行った。
④ 放射線量の測定と公表
毎日測定し、ホームページに掲載、国の基準の1/2まで低減させ、学園関係者の安全安心につなげた。
⑤ 原発被害福島県私立大学・短期大学連合会(7法人10校)
放射能汚染による入学辞退、退学者による学納金の減少、除染を行う経費、風評被害による学生確保の支援など、国の責務として適切な賠償措置を講じるよう、国に対して「要望書」を提出。

(4月、6月、12月)

・ 家族会総会(6月11日)

・ 家族会方部別教育懇談会(開催時期は7月上旬から7月下旬)

・ 東北(県南・郡山)支部会(高校)計3方部、南東北(浜通・関東・北東北)福島・会津・県南・郡山方部会(大学・短大)計8方部
※平成23年度芸術鑑賞・教養講座
○第173回芸術鑑賞講座劇団四季「クレイジー・フォーユー」7月27日(水) 短大、26日(火) 高校
○第174回芸術鑑賞講座「追悼 彫刻家佐藤忠良」展 9月27日(火)～10月2日(日)
○第175回芸術鑑賞講座「フランク・リスト室内管弦楽団」11月17日(木) 高校14・30、大学短大13・00
○第1回教養講座「東京スカイツリーの建設」講師 堀池隆弥氏 (株)大林組設計本部副課長 9月26日
○第2回教養講座「生命とは何か」講師 福岡伸一氏 青山学院大学総合文化政策学部教授 12月2日
※東日本大震災及び原発事故被災関係

平成23年度 決算報告

学校法人郡山開成学園の平成二十三年度決算について、東邦監査法人の監査を受け、理事会・評議員会で報告、決定されましたので、その概要をご報告いたします。

平成二十三年度資金収支計算書において、前年度繰越支払資金を加えた資金収入合計は、6,209,758千円となり、予算より1,770,168千円上回りました。これは、主として、資金収入調整勘定、資産運用収入等では見込みを下回りましたが、補助金収入、雑収入、その他の収入等で見込みを上回ったためです。

資金支出は、教育研究経費支出、資産運用支出等で見込みを上回りましたが、設備関係支出、施設関係支出、管理経費支出で見込みを下回ったため、3,708,338千円となりました。

その結果、次年度繰越支払資金は2,501,420千円となり、予算より1,711,324千円増となりました。

額は、1,667,430千円となっております。

従って、平成二十三年度の消費収支は、当年度消費収支超過額1,667,430千円に、平成二十二年決算の繰越消費支出超過額4,215,470千円を加え、翌年度繰越消費支出超過額は、4,382,900千円となりました。

一方、貸借対照表では、資産に関しては、将来に備え、教育、研究、施設等を充実させるため、資金を計画的に積立て、安全で有利な資産運用に努めております。

また、負債に関しては、退職給与引当金の計上、及び次年度授業料等前受金、期末未払金等以外には、金融機関等からの借入金もなく、健全な財務状況にあります。

平成二十四年五月三十日
学校法人 郡山開成学園
監事 橋本 忠雄
監事 遠藤 武士

私たちは、学校法人郡山開成学園の監事として、私立学校法第三十七条第三項に基づいて同学園の平成二十三年度(平成二十三年四月一日から平成二十四年三月三十一日まで)における財産目録及び計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表)を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実はないことを確認いたしました。

開成の杜(7)

1 資金収支計算書

資金収支計算について、その主な内容をご報告いたします。
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

〔資金収入の部〕		(単位:円)	
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,388,000,000	1,392,343,700	△ 4,343,700
手数料収入	20,800,000	21,046,442	△ 246,442
寄付金収入	26,500,000	27,171,000	△ 671,000
補助金収入	1,125,700,000	1,831,586,900	△ 705,886,900
国庫補助金収入	801,793,000	1,426,270,000	△ 624,477,000
地方公共団体(県)補助金収入	319,714,000	401,345,900	△ 81,631,900
地方公共団体(市)補助金収入	4,193,000	3,971,000	222,000
資産運用収入	77,030,000	75,265,335	1,764,665
資産売却収入	100,000	0	100,000
事業収入	75,000,000	81,621,800	△ 6,621,800
雑収入	190,000,000	203,488,783	△ 13,488,783
前受金収入	288,000,000	299,440,100	△ 11,440,100
その他の収入	326,642,831	1,660,429,557	△ 1,333,786,726
資金収入調整勘定	△ 600,000,000	△ 904,452,022	304,452,022
前年度繰越支払資金	1,521,817,169	1,521,817,169	—
資金収入の部 合計	4,439,590,000	6,209,758,764	△ 1,770,168,764

補助金収入が見込みを大きく上回りました。

期日が1年以内となる長期定期預金の繰入収入を1,300,000,000円計上しました。

原発事故に伴う放射能線量低減化工事の追加による支払報酬費や賃借費等の増加によるものです。

2 消費収支計算書

消費収支計算について、その主な内容をご報告いたします。
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

〔消費収入の部〕		(単位:円)	
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,388,000,000	1,392,365,300	△ 4,365,300
手数料	20,800,000	21,046,442	△ 246,442
寄付金	34,500,000	36,759,240	△ 2,259,240
補助金	1,125,700,000	1,831,586,900	△ 705,886,900
国庫補助金	801,793,000	1,426,270,000	△ 624,477,000
地方公共団体(県)補助金	319,714,000	401,345,900	△ 81,631,900
地方公共団体(市)補助	4,193,000	3,971,000	222,000
資産運用収入	77,030,000	75,265,335	1,764,665
資産売却差額	100,000	0	100,000
事業収入	75,000,000	81,621,800	△ 6,621,800
雑収入	190,000,000	203,488,783	△ 13,488,783
帰属収入合計	2,911,130,000	3,642,133,800	△ 731,003,800
基本租入額合計	△ 129,734,000	△ 15,119,188	△ 114,614,812
消費収入の部合計	2,781,396,000	3,627,014,612	△ 845,618,612

震災に伴う固定資産の除却が増加したためです。

主に支払報酬費や賃借費等が増加したためです。

3 貸借対照表

貸借対照表について、その主な内容をご報告いたします。
平成24年3月31日現在

〔資産の部〕		(単位:円)	
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	9,064,592,248	10,811,494,838	△ 1,746,902,590
有形固定資産	7,766,350,078	8,093,669,889	△ 327,319,811
土地	2,744,921,500	2,744,883,000	38,500
建物	4,055,292,235	4,382,626,805	△ 327,334,570
構築物他	966,136,343	966,160,084	△ 23,741
その他の固定資産	1,298,242,170	2,717,824,949	△ 1,419,582,779
長期定期預金	0	1,300,000,000	△ 1,300,000,000
有価証券	700,000,000	700,000,000	0
ソフトウェア他	598,242,170	717,824,949	△ 119,582,779
流動資産	3,003,287,336	1,627,808,288	1,375,479,048
現金預金	2,501,420,034	1,521,817,169	979,602,865
未収入金他	501,867,302	105,991,119	395,876,183
資産の部合計	12,067,879,584	12,439,303,126	△ 371,423,542

〔負債の部〕		(単位:円)	
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	927,111,596	1,090,861,022	△ 163,749,426
退職給与引当金	908,025,431	1,061,369,462	△ 153,344,031
長期未払金	19,086,165	29,491,560	△ 10,405,395
流動負債	443,329,938	498,693,167	△ 55,363,229
授業料等前受金	291,760,900	395,400,800	△ 103,639,900
預り金他	151,569,038	103,292,367	48,276,671
負債の部合計	1,370,441,534	1,589,554,189	△ 219,112,655

〔基本金の部〕		(単位:円)	
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	14,834,338,070	14,819,218,882	15,119,188
第4号基本金	246,000,000	246,000,000	0
基本金の部合計	15,080,338,070	15,065,218,882	15,119,188

〔消費収支差額の部〕		(単位:円)	
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 4,382,900,020	△ 4,215,469,945	△ 167,430,075
消費収支差額の部合計	△ 4,382,900,020	△ 4,215,469,945	△ 167,430,075

〔正味資産〕		(単位:円)	
科目	本年度末	前年度末	増減
正味資産	10,697,438,050	10,849,748,937	△ 152,310,887

〔減価償却の累計額〕		(単位:円)	
科目	本年度末	前年度末	増減
減価償却の累計額	7,077,363,663	6,739,537,353	337,826,310

参考 ※正味資産=資産-負債

祝・入学 第176回芸術鑑賞講座

ミラノ・クラシカ合奏団&森麻季演奏会

学園設立当初から感動の教育として実施してきた芸術鑑賞講座は6月15日、176回を数えた。この日はイタリアからミラノ・クラシカ合奏団&森麻季さんをお迎えしての演奏会。建学記念講堂で学生、生徒や教職員1,600人が鑑賞した。

ミラノ・クラシカ合奏団は、50年以上の伝統を持つアンジェリクムオーケストラの主要メンバーによって1993年に創立、バロック期をはじめ特に古典時代全般の名曲から19世紀や現代の作品まで幅広いレパートリーを持ち、多数の世界的に有名な



すばらしい歌声を披露した森麻季さん

なアーティストと共演している。ビジュアルディやアルビノーニをはじめとするイタリア・バロックの名曲の数々を本場の実力派が奏でる究極のサウンドで愉しみ、ヘンデル等の名曲集を森麻季さんの清楚な歌声で味わった。

第177回芸術鑑賞講座 吉田兄弟コンサート「三味線だけの世界」

7月10日、建学記念講堂で第177回芸術鑑賞講座「吉田兄弟コンサート『三味線だけの世界』」が開催された。

吉田兄弟は、北海道登別市出身の津軽三味線の兄弟奏者。共に5歳より三味線を習い始め、津軽三味線全国大会などで頭角を現し、1999年にアルバム「いぶき」で本格デビュー。津軽三味線独特の魅力で若い層に絶大な人気を誇り、アメリカやヨーロッパ、アジアでも広く活動し、今後が多に期待されている。

演奏会では、黒田節、モダン、鼓動、



津軽三味線のすばらしさを伝える吉田兄弟

百花繚乱、など10曲を披露。心を揺さぶる独特の音色は学生、生徒に深い感銘を与え、拍手が鳴りやまなかった。

「モバイルサイトをご覧くださいだけです。」

携帯電話からQRコードを読み込むことで、モバイルサイトにアクセスできます。QRコード読み取り非対応の方は、左記URLを入力することでモバイルサイトにアクセスできます。
<http://www.koriyama-kgc.ac.jp>



来年4月から 女子ハンドボール部を新設 富本氏が監督に就任

附属高校に来年4月からハンドボール部が新設され、初代監督には本学講師で元全日本コーチを務めた富本栄次氏が就く。

富本氏は神奈川県出身。日本体育大学卒業後、実業団の大同特殊鋼で選手兼監督を務めた。センタープレーヤーとして、これまでナショナルアマチュアに91試合出場、259点を挙げた。富本氏は「高校生らしく、元気で明るいチームを作り、将来はインターハイを目指す」と力強く抱負を述べた。



監督に就く富本氏

地域安全運動・暴力追放ポスター展で 和田さんが最優秀賞を獲得

県防犯協会連合会の地域安全運動暴力追放運動ポスター・標語コンクールの審査会が6月22日に行われ、高校生・一般の部で和田彩伽さん(3年)が最優秀賞、捧裕紀さん(3年)も優秀賞に選ばれた。

ポスター展には県内から753点の応募があり、二人の作品は同連合会のホームページや広報紙などに掲載されるほか、全国コンクールにも出品される。



最優秀賞の和田彩伽さんの作品

京都府立宮津高校が ままごとハウスを寄贈

東京電力福島第一原発事故の影響で外遊びが制限されている附属幼稚園のために、京都府立宮津高校生が作った「ままごとハウス」が8月1日に寄贈された。

大きさは高さ1.9メートル、長さ1.9メートル、幅1.7メートルで、同校建築科の3年生16人が4月から授業や放課後夏休みを利用して制作した。生徒たちは園児や保護者が見守る中、組み立て作業を行った。



完成した「ままごとハウス」の前で、ハイポーズ。

ラッピングバスのデザインを一新

郡山市内を走っている福島交通の路線バスのデザインが短大・生活芸術科の協力で6月から一新された。ライトブルーを基調に黄色文字で学園がアピールされており、主に市内循環線で使用されている。



ニューデザインのバス

本学所蔵 紙上美術展68

斎藤清の版画

創学館南側の「ネーチャードーム」はフーコウ振り子の館として公開されている。5層吹き抜け壁面回廊は斎藤清の「犬」「童子」「馬」等50点が常時展示されている。

「犬」

●斎藤 清画伯プロフィール 1907年(明治40年)福島県会津坂下町に生まれる。24歳で上京し独学で絵を学び、その後木版画制作へ。1951年、サンパウロピエンナーレ展に「凝視(花)」を出品し受賞。日本の現代版画の素晴らしさと斎藤清の名を世界に広めることとなった。以後、国内外で数多くの栄誉に輝き、1997年永眠。享年90歳。



「童子」



「犬」

木もれ陽

ここ数ヶ月、フェイスブックを楽しんでいる。登録自体は昨年度に行なっていたのだが、しっかりと始めるきっかけが無いままIDをそのままにしていたのだが、たまたま覗いたときに私の大学時代の2つ上の先輩が、今年になりおじいちゃんになったことを知ったことであつた。それ以来、今と過去と、そしてほんの少しの未来が目の前にある感覚を楽しんでいる。

そんな中、知人がシェアしていたのが、子どもが幸福な成人となるプロセスについて研究している7月の『Journal of Happiness Studies』誌に掲載された論文についてであつた。ニュージーランドのおよそ1,000人を対象に、誕生直後から成人期までを追跡調査している「タニーディン健康と発達に関する学際研究」のデータ32年分が用いられ、3年ごとに「親や仲間への愛着」「学業成績」など、およそ思いつく限りの社会心理学的に好ましい要素について評価が

なされている。結果について多岐に渡り述べられている中でまず目にしたのは、成人してからの幸福度に最も結びつけていた要素は、若年期における「社会とのつながり」だった(相関係数は0.62)ことであつた。これに比べて、「学業成績」は幸福度の予測因子としてはるかに劣っており、相関係数は0.12だった。人を幸せにする「学び」とは何なのかを考えさせられる。現代は非常に不安定な状況にあり、その中で一人一人が自己充実、自己実現を求め幸せを感じる点も多様化して生きているように思えるが、その幸せの多くに共通しているのが社会とのつながりであつたことは、表面的な知識の獲得ではない幼児期からの学びの本質の追求が大事であることを意味している様に感じられる。

一人一人の子どもたちが大きくなる中で、こうした幸せを感じるために、教師としてできること...それをこれからも求め、考えていきたい。(賀門)